

双葉西小学校 R3 学校関係者評価書

令和4年2月28日（月）
（双葉西小学校）学校関係者評価委員会作成

第1回 学校関係者評価委員会

実施日：令和4年2月21日～28日 *学校関係者評価アンケートの回収

会場：コロナ禍のため参集せず、アンケート回収

参加者：（学校関係者評価委員）

小田切千尋・山田健一郎・石原茂雄・花田弘樹・今村征稚・齊籐さや香
清水麻希・日永龍彦・中島雅子・前村はぎ映・阿部智子・藤田幸江・
堀内雅美・豊田泰長・金丸徹・小野貴博

（学校側）

平塚克人（校長）・小宮山昇（教頭）・保坂修男（教務主任）
山本真由美（CSコーディネーター）・中嶋銀河（事務）

I 学校側から提案された内容

- ・本年度の活動の反省について
- ・いじめ・不登校・体罰について
- ・学校評価結果とその考察
- ・双葉西小学校運営協議会要項改訂予定（案）
- ・来年度の学校体制について
- ・来年度の予定について
- ・150周年記念について
- ・教職員の任用に関わる意見申出書

II 協議された主な内容

- ・コロナ禍での教育活動情報発信について
- ・児童のスマホ・ゲーム時間増と読書時間減について

<学校関係者評価書>

I 全体評価

- ・昨年同様、前例のない事態の中で、少しでも多くのことを伝えていただきとてもありがたく思う。

II 特徴

- ・教育活動の発信について、学校と保護者の結果に50%もの乖離がある。高学年になるにつれて、おたよりに目を通すのも減ってくるであろうし、児童が見せない（親も確認しない）ということも考えられる。対面で説明するのと文書を渡すだけでは理解度に差が出てくると思う。
- ・学校からの情報発信は、保護者にはホームページ、学校だより、学年だより、ふたすけ通信、安心メールがある。地域にもホームページや回覧での学校だよりで発信をしている。行事が公開できない中でも、ビデオ撮影されたクリップの配信等の工夫を行っている。学校情報を得る上では保護者の関わり方が重要だと思う。
- ・スマホ、ゲームについては家庭の問題と言える。買い与えた時に、時間やルール徹底、使用状況の把握、フィルタリングや課金、オンライン等による危険等、あらかじめ予想されることへの親の意識に差があるのではないか。

- ・スマホやゲームは家庭でのルール作りが大事だが、家庭では治めきらず、昼夜逆転して、結果不登校にまでなってしまうのは残念に思う。
- ・スマホやゲームについては難しい問題。祖父・祖母の時代は「遊び」、父母の時代は「マンガ」「テレビ」が悪役だった。子どもも自分のペースで読書、勉強をするし、そうではない大半の時間、今では「ゲーム」「スマホ」と時代と共に形を変えているだけだと思う。
- ・「読書」については、それにかかる時間も気になるが、本を好きになってもらうこと、たくさんのことを教えてもらうことができることに気づかせることが大事だと思う。

Ⅲ 今後の課題として意識されたいこと

- ・保護者や地域配付の学校だよりの中に、ホームページへのアクセスを促すと、更に多くの方に活動を目にしていだける。
- ・ビデオ配信について安心メールで伝えると、視聴も増えるのではないか。
- ・スマホの恐ろしさは、無責任な間違った情報や匿名による行きすぎた発信だと思う。テレビやマンガ、ゲームよりも毒性は強いので、その部分への対応も考えていく必要がある。
- ・図書室で借りる本を3冊から1冊に減らし、友達に紹介する機会を増やしたり、家庭においてはマンガやコミックも読書として許容したり、スマホやタブレットでの電子書籍も許容したりすることが必要かと思う。
- ・読書を強要すると嫌いになってしまうので、少しの時間で読み続けることが大切だと思う。
- ・「読書」については物語のストーリーに関心を持たせ、自ら進んで「本を読みたい」と思わせるきっかけ作りが大事ではないかと思う。
- ・空想力や創造力が逞しくなる本の選定と紹介もあると良いかもしれない。

※特記事項

- ・特になし

記載責任者（双葉西小学校 学校関係者評価委員） 氏名：小宮山 昇 印